

令和8年10月

国立大学法人 愛媛大学医学部附属病院は 開院50周年を迎えます

—医療を創る、人を創る、愛媛を守る—

本院はこれまで、「患者から学び、患者に還元する病院」という理念のもと、地域に根ざした医療を実践し、多くの皆様に支えられて歩んでまいりました。
この節目にあたり、私たちは、患者サービスの向上をはじめとする記念事業を通じて、次の50年への一歩を踏み出します。
本記念事業への温かいご支援とご参加を賜りますようお願い申し上げます。



患者サービス向上事業の推進

患者呼び出しサービスの提供



「患者呼び出しサービス」を導入し、待合室の混雑解消のほか患者さんの負担軽減、満足度向上を図ります。

附属病院開院50周年記念誌の発行

最新の附属病院の情報を掲載した記念誌を発行します。

患者医療情報をスマホで確認・保管できるサービスの提供



お手持ちのスマートフォンから、ご自身やご家族の診療記録・検査結果などをいつでも確認できるサービスです。
ご自身の健康状態をより深く理解し、安心して治療に取り組むためのお手伝いをします。

催事の開催

50周年記念市民公開講座等を開催します。

編集後記

本号では、開院50周年という大きな節目を迎える附属病院のこれまでの歩みと、次の時代への展望を特集しました。

新旧病院長による対談からは、地域医療への責任と未来への思いが感じられます。半世紀にわたり支えてくださった皆様への感謝を胸に、「医療を創る、人を創る、愛媛を守る」

附属病院として、次の50年へ歩みを進めてまいります。

広報委員会委員長
城戸輝仁



今月の表紙

第20代病院長 羽藤直人
総合臨床研修センター長 熊木天児
看護部長 山本美津子
研修医 新人看護師



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111 (代)

情報発信中！



愛媛大学医学部附属病院
ホームページ



医学部及び附属病院
Instagram



愛媛大学大学院医学系研究科・医学部
ホームページ

INVITATION

EHIME UNIVERSITY HOSPITAL 愛媛大学医学部附属病院 広報誌

80

2026

医療を創る、人を創る、愛媛を守る附属病院でありたい





第19代附属病院長 杉山 隆

すぎやまたかし©1988年関西医科大学卒業。三重大学、東北大学を経て2015年から愛媛大学大学院医学系研究科産婦人科学教授。2021年4月から附属病院長に就任。専門は周産期医学。連携を図る過程で、多くの人と出会えることが楽しみ。



教授就任
INVITATION43号



病院長就任1期目
INVITATION65号



病院長就任2期目
INVITATION76号

杉山先生は2021年4月に病院長就任。就任時は「患者から学び、患者に還元する病院」を理念に「さらに愛される愛大病院」を目指すと言われました。2期目は、情熱を持って、現場・地域と共に改善を意識し、改革を進めると。

杉山●私の病院長就任期間を振り返ると、まず思い起こされるのは新型コロナウイルス感染症への対応です。病院長拝命直後にコロナ禍になり、専用病床であるICU2は満床になりました。院内の部署連携はもとより、関連病院、医師会、行政との協力・連携の強化に努めました。関係者全員の献身的な協力によって、コロナ禍から愛媛県を守る一助と

なることができたと思っています。またこの間、病院再開発の推進や物価高騰への対応など、厳しい経営環境の中で病院運営の課題にも向き合うこととなりました。

羽藤先生は愛媛大学医学部を卒業。学生さんの頃から附属病院に接しています。2026年10月に開院50周年を迎えることについて思うことはありますか。

羽藤●医学生時代の臨床実習を含めて、私は附属病院に大切に育ててもらったと思っています。私が学生の頃に比べて、医学・医療は大きく進歩しました。その点を考慮しても、現在の附属病院の医療レベルは非常に高度になったと感じます。最先端・高度医療だけでなく、一般的な医療に対しても幅広く対応できる病院になったと誇りに思います。

杉山●附属病院のある東温市は愛媛県の中央に位置しています。この50年の歩みの中で、愛媛の地に深く根を張り、幹を太く成長させながら、愛媛県の医療を担う大樹に育ってきた印象を持っています。次の50年に向けて、さらに大きく力強い木へと成長することを願っています。

より大きな木にするためには若い世代の活躍も必要です。

羽藤●医師・看護師不足は簡単には解決できない課題です。若い人がここで働きたいと思える、魅力ある附属病院であることが求心力を高めます。採用→育成→定着というサイクルが優秀な医療人を育てることにつながります。

杉山●今後、当院の研修は2次救急に関わるができる体制を整える予定です。救急医を目指す場合に限らず、さまざまな疾患を幅広く経験しながら学べる

環境は、若手医師にとって大きな魅力になるでしょう。まずは愛媛県内で研修を始めてもらうことが、その後の愛媛への定着につながるものと期待しています。

羽藤●医学部には看護学科もあります。卒業生の定着率（愛媛県内）が40%から、今では60%に上がってきています。優秀な看護師さんが附属病院で学び、残り、育つことで、看護体制のいい循環が生まれると思っています。また医療DXを推進し、患者さんに寄り添える時間を多く持てるような環境を整備していきたいです。

杉山先生が推進した病院再開発の現状は。

杉山●病棟の1号館は築50年になり、建て替えの時期に差しかかっています。しかし、材料費・人件費等が想定以上に高騰し、建築費は当初計画の2倍に膨らんでおり、非常に厳しい状況にあると言わざるを得ません。

こうした状況だからこそ、現在は病院が備えるべき機能を見極め、最適化を図るランドデザインをしていく重要な時期にあります。将来の医療体制をどのように構想し、それを設計に反映しているのか、知恵を結集することが求められています。また、実現可能な未来像を示すことは、若い世代の関心を附属病院に向け、そこで働く医療従事者のモチベーション向上にもつながります。その意味でも、新病棟建設は今後の附属病院の発展を推進する大きな原動力になると考えます。

50周年では様々なイベントが予定されています。この機会に考えられていることはありますか。

羽藤●1つは広報の活性化です。まだまだ附属病院の正確な情報が十分に届いていないと感じています。INVITATIONを

含め、最新の情報発信を進めていきたいです。2つ目は診療所と附属病院の連携強化です。診療所の先生方にとって附属病院は敷居が高いイメージを持たれているように思います。そこで、2026年度中にご開業の先生方を附属病院に招待し、ハード・ソフト両面を知っていただき、情報共有を図る「第1回愛大病院シンポジウム（仮称）」の開催を考えています。

INVITATION 79号で紹介した、地域医療・総合診療学講座については。

羽藤●総合診療に興味を持つ医学生が増えています。愛媛県には、そういう医師を育てる場所がなく、県外に流出していました。2025年度からスタートしたこの講座は、その受け皿になります。愛媛県は離島や山間部も多く、総合診療医を育成し届ける体制作りの中核となる予定です。

杉山●羽藤先生のご指摘のとおり、医師偏在や地域医療の課題に向き合う講座です。コンセプトのしっかりした講座で、阿部教授には期待しています。

杉山先生から羽藤先生へエールを。

杉山●物価高騰や働き方改革、さらには超少子高齢化の進行など、病院経営を取り巻く環境は大きく変化しており、

今後も厳しい状況が続くことが予想されます。病院長としての舵取りは、これまで以上に難しいものになるでしょう。そうした困難な局面においてこそ、工夫を重ね、副院長をはじめ職員全員で考え、力を合わせて取り組み、より良い結果に繋げていくことが大切だと思います。羽藤先生には、苦労も多いとは思いますが、その過程を楽しみながら務めていただきたいと願っています。

先生は今治のご出身で、愛媛の地域事情等、よくご存知であり、幅広いネットワークと多くのアイデアをお持ちです。新しい時代を担う病院長として、その力を十分に発揮されることを期待しています。

羽藤●杉山先生が愛媛に来られたときの産婦人科の地域医療はかなり厳しい状況でした。そこをいい方向の軌道に乗せていただきました。愛媛の産婦人科医療を本当に守っていただきました。ありがとうございます。また、コロナ禍での舵取りという、前例のない難局を、先生ならではのアイデアと行動力で乗り切っていただきました。感謝しております。

杉山●開院50周年のキャッチフレーズ「医療を創る、人を創る、愛媛を守る」は私が考えたものです。そのまま羽藤先生へプレゼントします（笑）。4月から、よろしくお願いします。



第20代附属病院長 羽藤直人

はとうなおひと©愛媛県出身、1989年愛媛大学医学部卒業。1999～2001年スタンフォード大学留学、2014年愛媛大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授、2023年愛媛大学大学院医学系研究科長、2026年4月から附属病院長に就任。専門分野は神経耳科学。趣味はゴルフとセーリング。



教授就任
INVITATION37号



医学部創立50周年記念特集
INVITATION72号

羽藤●いい言葉だと思います。その言葉を体現できる愛大病院を目指します。杉山先生は愛媛を離れると聞いていますが、大所高所からご指導ください。今後のご活躍を祈念しております。本当にありがとうございました。

ご寄附のお願い「愛大病院つなぐ基金」

50年にわたる歴史とともに築いていただいた皆様、そして未来の医療をともに創る皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

寄附目標額：6千万円

寄附の方法

1 オンラインでのお申込み

クレジットカード決済、コンビニ決済、ペイジー決済がご利用できます。お申込みは、こちらのQRコードから。



2 金融機関からのお振込み

払込取扱票でお振込みください。ご入用の際は、愛媛大学医学部研究協力課（TEL：089-960-5172）までお知らせください。